

# 令和4年度 「ハッピー♥スマイル」 第4回開催報告

【日 時】 令和5年1月22日(日) 13時～

【場 所】 浅口市健康福祉センター  
ボランティア研修室

【参加者】 保護者2名 子ども1名 医師1名  
救急救命士1名 養護教諭1名



## 1 開 会

## 2 アレルギー情報提供

- アレルギーを考える母の会代表理事の園部まり子さんの特集が、日経新聞に4回にわたり掲載され紹介した。①次男にアレルギーマーチ ②声上げなければ対策進まず ③「どこでも標準治療」基本法に ④発症予防に重点、自治体動かす。

園部さんの次男が重症のアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息、鼻炎・結膜炎を併発し苦闘する日々を送っていたが、アレルギーに精通した専門医と出会って劇的に健康を回復した。この体験をもとに、平成11年、ともに悩んだ10人の母親が集まって横浜で会を発足。(社)日本アレルギー学会等と連携し、困っている患者と専門医との橋渡しを第一に、共感と励まし、「治療ガイドライン」情報などを必要とする誰にでも提供するピアサポート活動を行っている。

浅口医師会主催の「アレルギーフォーラム」では、講師をして頂いたり、中央からトップクラスの講師を派遣して頂いたりとお世話になっています。また、浅口市の保育園・こども園・幼稚園の関係者向けのアレルギー研修でもお世話になり、浅口市のアレルギー対応の向上にも貢献して頂いています。

- アレルギー講演会のお知らせ

令和4年度 都民向けアレルギー講演会 (WEB配信)

## 子供から大人までのアレルギー教室

～ぜん息と食物アレルギー～

実は誰でも発症するかもしれない  
ぜん息と食物アレルギー  
どうして発症するの？  
予防はできるの？  
発症したらどうすれば良い？  
皆様の疑問に専門家が  
わかりやすくお答えします！

2月は  
東京アレルギー  
救急対策  
推進会の活動  
です

WEB配信期間  
令和5年2月1日(火)から令和5年2月28日(火)まで

●期間中、下記サイトにて講義の動画を配信します。

- 1 東京都アレルギー情報navi.  
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/allergy/effort/lecture.html>
- 2 東京動画 東京都公式動画チャンネル  
<https://tokyodouga.jp/>

視聴無料・申込み不要

講演① 「子供のぜん息・食物アレルギー」 明石 真幸 氏  
講演② 「大人のぜん息・食物アレルギー」 正木 克宣 氏

## アレルギー疾患対策推進事業 岡山アレルギー疾患講演会

WEB配信

視聴期間 2023年2月17日(金)～3月17日(金)  
参加方法 WEB開催、事前登録制(申込方法は裏面を参照)  
対 象 医療従事者、教育・保育関係者等アレルギー疾患に関わる専門職種およびアレルギー疾患に関心のある方

### 第一部：アレルギー診療における治療の進歩

講演1 「アレルギー性鼻炎の最新の話題」  
講師：岡山大学病院 耳鼻咽喉科 村井 綾 先生

講演2 「喘息治療の進歩 生物学的製剤を中心に」  
講師：岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科 肥後 寿夫 先生

講演3 「アトピー性皮膚炎の新しい治療」  
講師：国立病院機構岡山医療センター 皮膚科 藤原 智高 先生

### 第二部：岡山県におけるアレルギーへの取り組み

講演1 「岡山県における小児食物アレルギーへの取り組みの現状」  
講師：岡山大学病院 小児科 八代 利登 先生

講演2 「岡山県食物アレルギー対応委員会での取組」  
講師：岡山県教育庁保健体育課 片岡 敏行 先生

(注) 国立病院機構岡山医療センター アレルギー疾患医療拠点病院対策室  
〒701-0204 岡山県瀬陽郡早島町早島 4066  
電話：086-482-1121 FAX：086-482-3383 E-mail：505-musami.azem@hosp.go.jp

### 3 情報交換

- ・今回は3歳の卵アレルギー児のお母様が初参加されました。卵食べて2時間位で嘔吐出現し、卵による消化管アレルギーと診断されています。負荷試験受けたが、ごく少量でも嘔吐し現在は完全除去対応とのこと。1年以上たって、再度経口負荷試験をしましょうと言われていました。4月からこども園入園予定なので、どのような準備をしたらよいか相談に来られました。初めての園生活でいろいろと不安が尽きないようでした。一番の不安は給食対応なので、給食の見学や付き添い希望を伝えるように助言しました。欠勤などで急にスタッフが少なくなった時の配膳を含めた対応や、体調が悪くなった時などのように対応するかも相談するように勧めました。かかりつけの病院が車で約一時間かかるので、急変した時には搬送は難しい。それを踏まえて、主治医にはどこに搬送されてもいいように、診療情報提供書をあらかじめ書いて頂いておく。そしていざという時（救急搬送時）には、担当医に渡せるようにしておく。こども園に持っていくものに、「卵アレルギー」がすぐにわかるものを貼ったり、付けたりしておく。アトピー性皮膚炎はないが保湿はしているということなので、そのままスキンケアは継続し、アレルギー性鼻炎は耳鼻科にかかっているののでしっかりと治療するように伝えました。先輩ママさんからもいろいろと体験談を通してアドバイスを頂き、少し不安が解消されたとのことでした。
- 浅口医師会からも教育委員会を通じて、こども園に適切な対応をしていただけるように働きかけをしました。
- こども園での生活が、少しでも安全安心にできるよう祈っています。



今回も、何とか開催できました。次回は、**令和5年3月19日（日）**浅口市健康福祉センターで開催します。情報交換の予定です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

（浅口医師会 高山晴彦）